

西部センターだより

3号

R2・2・28

「なんとまあ、おおきな大根！」暮れに帰省していた義妹が大阪に発つ朝、畑で発した歓声です。暖冬で、冬野菜が育ちすぎるくらい大きくなりました。

「例年」積雪がある地域では、1月から2月にかけて、雪を生かした活動が目白押しです。以前勤務していた地でも「雪合戦大会」が行われており、今年で22回を数えています。迷惑もどった雪を生かさそうとしていたのですが、暖冬が続くせいで、雪集めの心配が絶えません。

新春を迎えると、ショッピングモールなどの催し場は、華やかな装いを見せています。私の長女が誕生した20数年前、七段飾りが主流でしたが、同じ価格帯ながら1段～3段の雛飾りが主流となってきました。

見知らぬ土地で車を走らせるとき、当たり前のようにナビに頼っています。かつては、地図と案内標識の情報を咀嚼しながら車を走らせ、予定通り到着できた安堵感に浸っていました。時に、助手席で地図を見て案内する者との間に微妙な緊張感も漂っていましたが…。

文書づくりは、手書きからワープロ専用機になり、今ではPCとネット環境が無いと仕事一つできなくなってきました。2023年度までには、児童生徒1人1台のPC/Tab環境を実現し、それを用いて学習が行われることが計画（GIGAスクール構想）されています。

日々の変化は小さいものの、10年以上の括りで振り返ると、生活を取り巻く様々なスタイルは大きな変化があります。

今まさに Society4.0 から Society5.0 に移りゆくといわれ、情報化が急速に拡大・発展し、生活スタイルだけでなく、生産や職業そのものも大きく変革し、社会の仕組みも急速に変化していきます。また、人口減少、超高齢社会など、これまで経験したことのない社会課題にも直面しています。これからの10年は、「先行きが不

透明で、定まった解のない課題に直面する時代がやって来る」といわれています。

昨年の「しまねの社会教育フォーラム2019」で、講師の志々田まなみ先生が、Society5.0と人生100年時代と絡め、「他者と関わろうとするチカラ」の必要性と、体験的な学びが基盤となる社会教育の「出番」を説明されました^{※1}。

地域の公民館等の社会教育施設の出番や、社会教育のはたらきをベースにおいた、多様な「まちづくり」の出番が行われています。「定まった解」なんて、誰にも分からないからこそ、多様で異質な他者、多様な視点による対話の場と、皆の「折り合い」がつく「求める解」を明確にすることが大切になります。その過程で発揮される「巻き込むチカラ、巻き込まれるチカラ」が地域社会を支える力になるのだと思います。地域で続いている活動も、紆余曲折を経ながら、新たな関係者を巻き込み、外側だった人たちが巻き込まれてきたらこそ、地域で定着し地域を動かしてきているのだと思います。

学校では「開かれた教育課程」が本格的に動き出します。「地域づくりは学校づくり、学校の魅力づくりは地域の魅力づくり、社会教育は漢方薬^{※2}」といわれます。地域のチカラ、それを支え取り組む人、その人たちを支える社会教育のチカラをより高めるには「研修」の出番！と、研修の一層の充実を図りたいと思います。

今年度も社会教育研修センターの出番に、ご理解とご支援をいただき、ありがとうございます。2020年度も時代の変化と地域の皆さまの要求にお応えできる研修を開催していけるよう全力で取り組みます！

島根県立西部社会教育研修センター
所長 舟木 志郎

※1 詳しくは『しまねの社会教育だより Vol.30 2020_2月号』を参照ください

※2 令和元年度社会教育主事講習B 社会教育特講『地域学校協働活動の実際』岡山大学 熊谷慎之輔氏 より

今年度の研修・講座をふり返って

公民館等職員研修 (5回シリーズ) 5/22・6/5・6/28・9/13: いわみーる 10/18: 島根県立少年自然の家

PDCAサイクルで見つめ直す 公民館事業の実際

～既存事業のふり返りから、よりよい地域づくりをめざして!～

- 第1回: 事業のふり返りから考える未来
- 第2回: 実践から事業を見つめ直す
- 第3回: 住民の学びにつながる事業の全体構想とその展開
- 第4回: 事業のセールスポイントと取組の成果を伝えるプレゼンテーション
- 第5回: 事業実施の先にある新たな“P”へ! (東西合同発表会)

事業を改善
こんな想いで

- ・詰め込みすぎの事業を、ねらいを共有し、ゆとりあるものに!
- ・恒例の事業! マンネリ化脱却を
- ・伝統行事を若い世代に知ってもらい、継承して行ってほしい
- ・公民館主体の事業を、高校生と共に計画し実施したい
- ・地域行事にもっと若い世代を巻き込むために・・・



地域魅力化プログラム体験講座 5/30: いわみーる

まずは体験し、活用を考える



地域課題解決に向けた
参加型学習を体験的に学ぶ!!



コーディネーター研修 6/13: 浜田合庁

ともに学ぼう! 明日から生かせる コーディネート



「協働」・・・協力して働くことに加えパートナーシップの側面もあり対等な関係の構築が必要。
「支援」から「連携・協働」へ・・・これまでの地域から学校への「支援」ではなく、これからは双方の関係へと「連携・協働」を進め、すそ野を広げ継続的な活動に。
「支援活動で終わらないために」・・・ニーズを捉え直し、潜在化していることを掘り起こしたり、種をまくことも大切。

コーディネーターとして、つながりをつくる力が必要。
①異なる意見や取組があることが重要だという見方ができる力。この違いや共通点を把握する力。
②立場や組織文化が異なる他方の人が理解しやすいように“翻訳”“代弁”したりできる力
③変化を起こさせる力、関係する人がそれぞれ変わることができる力

- 講義: 「これからの連携・協働に向けて」
天野 かおり氏 (下関市立大学 准教授)
- 演習: 事例をもとにした具体的な場面を想定し、意見交流、解決策やアクションを出し合う (エピソード・ラベルワーク)



ファシリテーター養成講座 (3回シリーズ) 7/12・8/27・9/3: いわみーる

企画・設計できるファシリテーターをめざして

地域づくりに主体的に参画する人づくりに向けて、参加型学習を活用した学びの場、話し合いの場を企画・進行する力を高める場とします。

- 第1回: ファシリテート体験を通して、ファシリテーターの役割を知る
- 第2回: 地域でのファシリテートを思い描く! 学習プログラムのデザイン
- 第3回: 参加者が互いに引き出し・学び合う ファシリテート実践

受講生
ふりかえり

- ・事前準備の大切さ
- ・練習は大切!
- ・伝える説明の仕方
- ・経験が必要
- ・他の方のファシリが勉強に
- ・雰囲気
- ・逆の発想
- ・1人でやらない



社会教育委員研修 10/3: あすてらす

学び・話し・伝える

- 講義: 「行動する社会教育委員」をめざして
神部 純一氏 (滋賀大学 教授)

社会教育委員は“独任制”・・・人として委嘱・任命されており、個人的に調査研究を行ったり、社会教育に関する意見を述べたりすることができる
“伝えること”の大切さ・・・何を学び、どんな議論をしてきたのかを多くの人に知ってもらい、共感する人の輪を広げていく。言葉だけでなく、実践活動で。
行動する“社会教育委員”から行動する“地域人”へ

- 演習・情報交換
「社会教育委員/行政担当者としてしてやりたいこと」
「社会教育委員の力を発揮するための具体的な動きについて話し合う」



しまねの社会教育基礎講座

集って、楽しんで、学んで、動いて、変えていく



7/26 (浜田会場) 江津市総合市民センター

- 講義：「社会教育の役割と県社会教育行政の方針と事業」
久佐 日佐志氏 (浜田教育事務所企画幹)
- 実例発表：「新 ふれあい祭り展示会」
虫谷 昭則氏 (浜田市立石見公民館主事)

7/31 (益田会場) 津和野町池河公民館

- 講義：「社会教育の役割と県社会教育行政の方針と事業」
田中 茂秋氏 (益田教育事務所企画幹)
- 実例発表：「つわの Kinds Circle ~新たな風を巻き起こすために~」
佐々木康平氏 (津和野町立畑迫公民館主事)

しまねの社会教育フォーラム2019 11/23：サン・レイク

地域づくりを担う人づくりに向き合う しまねの社会教育実践者を目指して



- オープニングトーク・講義・総括
しまねの「地域づくりを担う人づくり」を進めるために大切にしたいこと
~「学びと活動の好循環」の観点から~
志々田 まなみ氏 (国立教育政策研究所生涯学習政策研究部総括研究官)

3つの無形資産・・・「人生100年時代」といわれるこれからのを、より充実したものにするために
①生産性資産②活力資産③変身資産が重要です。
非認知スキル・・・今求められているチカラで
①目標に向かって頑張るチカラ②人とうまく関わるチカラ③感情をうまく制御するチカラ
④他者や外界に関心をむけるチカラを言います。
社会教育は、体験的な学びを通じ他者と関わろうと働きかける役割をもっています。



- 実践発表①：~わたしのまちで生き生き暮らすために~
江木 眞由美氏 (浜田市立石見公民館主事)
- 実践発表②：「まち全体が学びの場」をめざして
~自分で循環を作る~
石倉 美生氏 (津和野町教育委員会・教育魅力化コーディネーター)



- 意見交換：「えんたくん」(直径1メートルの円形ダンボール)を使って



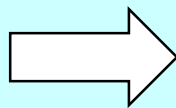
社会教育主事講習(B)について

社会教育主事講習 [B] が変わります

文部科学省から委託を受けた国立教育政策研究所社会教育研究実践研究センター(国社研)が実施する講習の地方会場【島根西会場】として、当センターでも開講してきました。今まで多くの方が受講・修了されてきましたが、令和2年度より以下の点が変更され、修了後は“社会教育士”を称することができます。

- 科目が変わります

令和元年度まで	生涯学習概論(2単位)
	社会教育計画(2単位)
	社会教育特講(3単位)
	社会教育演習(2単位)



令和2年度より	生涯学習概論(2単位)
	<u>社会教育経営論(2単位)</u>
	<u>社会教育支援論(2単位)</u>
	社会教育演習(2単位)

※受講者数によっては島根東会場(東部社会教育研修センター)と合同開催する科目もあります。

※令和元年度まで「社会教育演習」に位置づけられていた、施設宿泊研修はありません。

※すでに社会教育主事講習を受講するなどして、社会教育主事有資格者となっている方は、新設の『社会教育経営論』『社会教育支援論』の2科目の単位を取得することで社会教育士を称することができます。

- 令和2年度開催予定・・・令和3年1月21日(木)~2月18日(木)

放送大学のご紹介！

放送大学は、文部科学省・総務省所管の通信制大学です。
 大学卒業（学位取得）、教養を身につける、興味のある分野を学ぶ、資格取得のための単位を修得する等、さまざまな目的で学べる正規の大学です。

ご存じでしたか？西部社会教育研修センターには、**放送大学島根学習センター浜田コーナー**（再視聴施設）が併設されています。現在、全国で約90,000人、島根県内は501人（教養学部471人大学院30人）の学生が在籍しており、その内47人が西部地域在住です。

時間や場所を 問わず学習できます

BS放送、インターネット等で好きな時間に学習

3つの授業スタイル

口放送授業：テキストを使って、BS放送・インターネット等で学習します。通信指導、単位認定試験があります。

口オンライン授業：インターネットを通し講義を視聴、課題に取り組みます。一部科目を除き通信指導や単位認定試験はありません。

口面接授業（スクーリング）：学習センター等で講師が直接授業を行います。希望する全国57カ所の学習センターで受講できます。

特徴

入学の機会は
4月と10月の年2回

入学試験は
ありません

目的に合わせ
3つの学生種
から選択

さまざまな
年代や職業の方が
学んでいます

全国では、10代～100歳までの
方が学んでいます

学生の種類

- ◆ 全科履修生（最長10年まで在学）
- ◆ 選科履修生（1年間在学）
- ◆ 科目履修生（半年間在学）

全科履修生は、コースに所属

- ・ 生活と福祉コース
- ・ 心理と教育コース
- ・ 社会と産業コース
- ・ 人間と文化コース
- ・ 情報コース
- ・ 自然と環境コース

2020年1学期
学生募集中！

出願受付(必着)

第1回:2月29日 第2回:3月1日～3月17日
2学期募集は、6月～9月頃

浜田コーナーについて

浜田コーナー入口



利用時間 月曜日～金曜日 9:00～17:00
 閉所日 毎週土曜・日曜日
 国民の祝日
 年末年始
 利用内容 放送教材による放送授業の視聴
 放送教材の貸出等



視聴ブース

備考

- ・ 入学説明会・相談会
（例年1月・7月に行われます）
- ・ 履修相談会
（例年2月・8月に行われます）
- ・ 公開講座が、県西部で開催される
こともあります。

【60代・女性】

好奇心から入学。最初は単位を取るのに必死でした。無事卒業しましたが、あと数単位で他のコースも修了できることがわかり、再入学。今はゆっくり単位を取っています。

浜田コーナーで知り合った人に刺激を受け、「認定心理士」の資格も取得しました。今後は、参加している地域活動の参考になる科目を取るつもりです。

学生さんの声！

【80代・女性】

時間にゆとりができたので、好きな文学の科目を取っています。とにかく楽しい！新しい学びがあります。毎学期1科目を履修し、無理なく学んで9年になります。

【20代・女性】

働きながら好きな時間に学べるのが魅力！学費も他の通信制大学に比べ抑えられていて助かります。

高校卒業時には考えていなかった大学進学。今は卒業を目指しています。両立は大変ですが頑張っています！

* 浜田コーナーで大学科目の試聴体験ができます。放送大学大学院修士課程・その他詳しい内容等については、**放送大学島根学習センター**（松江市白湯本町43 TEL:0852-28-5500）にお問い合わせください。

* 再視聴施設は益田市にも設置されています。

西部センターだより 2019年度 3号

発行 島根県立西部社会教育研修センター

〒697-0016 浜田市野原町1826-1（いわみーる3F）

TEL : (0855) 24-9344

FAX : (0855) 24-9345

Eメール : seibu_shakaikyoiku@pref.shimane.lg.jp

URL : https://www.pref.shimane.lg.jp/seibu_shakaikyoiku/

URL : https://www.pref.shimane.lg.jp/seibu_shakaikyoiku/